

「作」の音読について

—さ・さく・さっ—

林姿里

(一)はじめに

日本語の学習者にとって、漢字は難しい部門の一つである。何故ならば、漢字は「音」と「訓」という二重の読み方があるうえに、「音」にも呉音・漢音・唐音などの区別があり、「訓」にも「(面)おも・おもて・つら」のようにさまざまな読み方があるからである。

ここでは、「作」という漢字を取り出して、考察の対象にする。「作」の読み方について、訓読はただ「つくる」しかないから、考察する際にあえて省略することにした。そして、「作」が付いて熟語を作る場合、「作」を「さ」と読んだり、「さく」と読んだり、「さっ」と読んだりする。この三つの読み方の中からいかにしてもっとも相応しい一つを選び出すか。その規則性を求めるために、日本語尾音索引(現代語篇)から語尾にくる「作」と、角川国語辞典(新版)から語頭にくる「作」の単語を取り出して、語形・意味・品詞という三つの面から、「作」の音読について考察してみようと思う。

(二)語形に見る「作」の読み方

語形から「作」の位置をみれば、語頭にくる「作」と語尾に

くる「作」がある。

I 語頭にくる「作」の読み方

「作」が語頭にくる場合、「作」を「さ・さく・さっ」と読む。しかし、実際に「さく」の例が多数を占めている。ここでは、その三つの読み方を分りやすく区別させるために、表1のように整理してみた。

「作」の音読	単語
さ	(「作」+漢字一字) 作法 作動 作業 作用
さっ	(「作」+漢字一字) 作家 作興 作歌
さく	(「作」+漢字一字) 作例 作品 作法 作画 作爲 作詩 作事 作詞 作战 作土 作成 作物 作製 作毛 作図 作柄 作文 (作家) 作風 (作歌)

表一

表1によると、次のことが分ると思う。

1. 語頭にくる「作」の下にほとんど漢字が一字付いて、全体として二字の漢語をなす。しかし、「作」の下に和語がくる例もある。例えば、「作違い」などである。

2. 「作歌・作家」は「さくか」とも「さっか」とも読まれるが、「さくか」の方が読まれなくなったようである。

母音無声化の規則によると、

◎文末の〔s〕に続く〔u〕、および

◎〔s〕や〔k〕などに挟まれた〔e〕と〔i〕

が無声化する。だから、「さくか」[sakuka]の〔u〕が無声化し、ついに脱落してしまうと思われる。

[sakuka] → [sakuka] → [sakka]

注：○印して無声化した音を示す。

Ⅱ語尾にくる「作」の読み方

調査の結果によると、語尾にくる「作」は「さ・さく」と読まれる。しかし、実際に「さ」の例は七つしかない。ここでは、語尾にくる「作」の熟語を集めて、表2のように整理してみた。

表2によると、次のことが分ると思う。

1. 「作」はだいたい漢字一字の下にくることである。だが、「漢字二字」と「和語」と「和語+漢字一字」の下にくる例もある。

2. 表1と合わせて見ると、「作」は語頭にあろうと、語尾にあろうと、和語と複合することができる。そして、その音読はみんな「さく」である。

表 2

「の作音」読	単	語
さ	(漢字一字+「作」) 造作 発作 動作 所作 座作 操作	(漢字二字+「作」) 無造作
さく	(漢字一字+「作」) 遺作 盜作 單作 細作 習作 半作 偶作 競作 耕作 大作 偽作 間作 名作 多作 混作 舊作 述作 輪作 佳作 勞作 連作 假作 劇作 農作 力作 句作 小作 駄作 著作 不家作 愚作 寡作 家造作 戲作 傑作 合模作 拙作 平作 模膺作 近作 米作 膺振作 原作 凶作 上蓋作 凡作 上下作 製作 下滿作 代作 滿新作 創作 減工作	(漢字二字+「作」) 一毛作 二毛作 三毛作 二期作 自小作 田吾作 出世作 二部作 三部作 (和語+漢字一字+「作」) 出小作 入小作 (和語+「作」) 春作 夏作 秋作 冬作 表裏作 裏作 畑作 後作 麦作 下作 稻作 拔作

(三)品詞別に見る「作」の読み方

次に、品詞別から「作」の読み方を見てみようと思う。その結果、共通点が一つ見つけられる。それは、調査の対象とされるそれぞれの単語の品詞別は、必ず名詞があることである。以下はそれらの単語を五つのグループに分けて、品詞の面から「作」の読み方をみてみよう。

A 純名詞（ほかの品詞と併存しないもの）

「作」の音読	単	語
さ	（「作」+漢字一字） 作法	（漢字一字+「作」） 造作 発作 動作 所作 座作
さく	（「作」+漢字一字） 作例 作柄 作法 作爲 作事 作条 作毛 作戦 作者 作風 作品 作土 作物 （和語+「作」） 春作 表作 麦作 夏作 裏作 下作 秋作 畑作 稲作 冬作 後作 拔作	（「作」+和語） 作違い 作男 （漢字一字+「作」） 遺作 拙作 上作 細作 満作 不作 偶作 単作 大名作 半作 舊作 家作 佳作 原作 假作 減作 力作 凡作 駄作 凶作 愚作 平作 戯作 米作 （漢字二字+「作」） 一毛作 二毛作 三毛作 二期作 自小作 田吾作 出世作 二部作 三部作 （和語+漢字一字+「作」） 入小作
さっ	（「作」+漢字一字） 作家	

このグループに属する「作」の読み方は三つとも可能であるが、「さく」の例が圧倒的多数を占めている。

B 名詞・形容動詞

「作」の音読	単	語
さ	（漢語二字+「作」） 無造作	
さく	（漢字一字+「作」） 寡作 傑作 下作	
さっ		

このグループに属する「作」は絶対に語頭に来ない。そして、語尾にくる例もかなり少ない。特に、「さっ」の例は全然ない上に、「さ」の例が一つ・「さく」の例が三つしかない。

C 名詞・自サ変動詞

「音読」の	単語
さ	(「作」漢字一字) 作動 作業 作用
さく	(「作」+漢字一字) (漢字一字+「作」) 作病 労作 作画 劇作 作詩 工作 作詞 (和語+漢字一字+「作」) 出小作
さっ	(「作」+漢字一字) 作歌

このグループに属する「作」の音読は三つとも可能であるが、「さく」の例がやや多い。そして、「さ」の例では、語尾にくる「作」が見つからない。

D 名詞・他サ変動詞

「音読」の	単語
さ	(漢字一字+「作」) 操作
さく	(「作」+漢字一字) (漢字一字+「作」) 作成 製作 偽作 連作 作製 多作 述作 造作 作図 代作 耕作 合作 (「作」+和語) 創作 新作 模作 作付け 盗作 間作 膺作 習作 混作 振作 競作 輪作 乱作
さっ	

このグループに属する「作」は、「さく」と読まれる方が圧倒的多数を占めている。そして、大部份の「作」は語尾にくる。

E名詞・自他サ変動詞

「作」の音読	単語
さ	
さく	(「作」+漢字一字)(漢字一字+「作」) 作文 句作 著作 農作 小作
さっ	(「作」+漢字一字) 作興

このグループに属する「作」の読み方では、「さ」の例が見つからない。そして、「さっ」の例が一つだけあって、「さく」と音読される「作」はだいたい語尾にくる。
 以上は品詞別ごとに、「作」の読み方を見てきたが、A→Eの表を改めてまとめれば、次のようである。

数量 品詞別	「作」の音読		さく		さっ		合計
	さ	さく	さく	さく	さっ	さっ	
純名詞	(作△ ₁) 1	(△ ₁ 作) 5	(作△ ₁) 13 (作○) 2	(△ ₁ 作) 26 (△ ₂ 作) 9 (○作) 12 (○△ ₁ 作) 1	(作△ ₁) 1		70
名詞 形容動詞		(△ ₂ 作) 1		(△ ₁ 作) 3			4
名詞 自サ変動詞	(作△ ₁) 3		(作△ ₁) 4	(△ ₁ 作) 3 (○△ ₁ 作) 1	(作△ ₁) 1		12
名詞 他サ変動詞		(△ ₁ 作) 1	(作△ ₁) 3 (作○) 1	(△ ₁ 作) 21			26
名詞 自他サ変動詞			(作△ ₁) 1	(△ ₁ 作) 4	(作△ ₁) 1		6
合計	11		104		3		

△漢字一字 △漢字二字 ○和語

のグループに分けられる。それは、(a) 農業にかかわる単語、(b) 文芸・芸術にかかわる単語、(c) 明らかに(a)(b)に属しない単語である。

この三つのグループの単語を表で示せば、次のようである。

この表によると、次の点が分かると思う。

1. 農業にかかわる「作」の熟語は、「作」の音読が全部「さく」である。

2. 文芸・芸術にかかわる「作」の熟語は、「作」の音読が全部「さく」である。(ただし、「作歌・作家」の場合は、「さっか」とも読める)。

3. (c)に属する「作」の熟語は、三つの読み方とも可能である。

(五) おわりに

以上は「作」の音読について、語形・品詞・語義の面から討論してきたが、まだ充分でないところが必ずあると私は思う。一方では、「作」のような、日本語の学習者を悩ませる漢字の読み方の問題がまだたくさんあるが、いずれに次稿に譲ることにした。

参考文献

1. 日本語尾音索引(現代語篇) 田島毓堂等編 笠間索引叢刊
2. 角川国語辞典(新版) 久松潜一等編 角川書店 (昭57)
3. 学研国語大辞典 金田一春彦等編 学習研究社 (昭54)